

キャリア・コンサルタント及び(株)アールナインのゼネラルマネジャーとして、お仕事をしている齊藤彩さんに働く上で必要な日本語力についてお伺いしました。



プロフィール

(株)リクルートエイブリックに新卒入社 (現：(株)リクルートキャリア※転職エージェント最大手企業) 人事にて給与関連、新卒採用、中途採用業務 3年半企業への採用コンサルティング業務 1年半転職希望者のキャリアアドバイザー業務 2年支社の立上げ業務、マネジャーなど経験後 2009年9月退職 2011年からフリーのキャリア・コンサルタントとして独立 2013年から(株)アールナインのゼネラルマネジャー (<http://www.r09.jp/>)、国際キャリア・コンサルタント認定講師 (<http://icca-japan.or.jp/>)

○齊藤彩さん、現在のお仕事の内容を教えてください。

齊藤) 現在は、キャリア・コンサルタントとして、企業の面接代行を行ったり、研修の講師を行ったり、リクルーターのフォローやマネジメントを行ったりしています。その他、(株)アールナインの中での様々な業務のマネジメントや業務整理なども行っています。

○面接代行、研修の講師、リクルーター業務は、どのような仕事ですか。

齊藤) はい、面接代行というのは、主に企業の一次面接を代行し支援することです。通常であれば、企業の人事等の担当者が面接するのですが、人事担当者の人数が少ない場合や、応募人数が多く対応が難しい場合、または人事担当者の経験が少ないために面接が難しい場合などにお手伝いさせていただいています。新卒採用の面接だけでなく、中途採用の面接の代行もやっています。

研修の講師については、営業系の研修でロールプレイングの相手役などをやらせていただくことが多いです。こちらも通常であれば、OJTなど現場の先輩や上司から指導をされることが多いと思いますが、あえて外部の者を使って客観的に指導して欲しいというご要望がある場合や、周囲も忙しく対応が難しいとの判断から弊社を使っている場合があります。

リクルーター業務は、主に新卒採用において、企業の人事担当者と学生をつなぐ役割を果たします。面接のアドバイスを行ったり、模擬面接を行ったり、就職活動全般についての悩み相談に乗ったりすることもあります。

○新卒採用に関わっている中で日本語の大切さを感じることはありますか。

斉藤) はい、あります。面接での言葉遣いや表現の仕方で印象が悪くなることもあります。

最近は、「エントリーシート→面接」という企業も多いですね。エントリーシートは、周囲の人にチェックしてもらってから提出することができるので、完成度の高いものが提出できます。一方で面接は、基本的に一回限りの場になります。普段と違って緊張もしていますし、きちんと話さなければと思うあまり、うまく話せなくなってしまう方もいます。普段の会話で目上の方や初対面の人と話すことに慣れているかどうか、話し方を心得ているかどうかが大変で、語彙力についても普段からの蓄積が大変重要です。

○社会人の研修もされていますが、その中でも日本語力の重要性について感じることはありますか。

斉藤) はい、私自身の話ですが、社会人になって数年後に法人営業を担当したのですが、社内で「的を得た質問をして〜」と話していたら、先輩に指摘されてしまいました。

社内の先輩が指摘してくれたので良かったのですが、恐らくこのような恥ずかしい間違いをお客様先でもしていたのではないかとすると、今、思い出しても恥ずかしいですね。採用面接の時に限らず、社会人になっても自分の日本語力については常に磨いていく必要がありますね。

研修のロールプレイングでも営業場面でも丁寧語や敬語を使えないと、ビジネスマン（ウーマン）としての信頼を得にくいとも感じます。

○日本語力を高めるために大学時代から取り組めることはありますか。

斉藤) 日本語力を高めると言ってもただ単に本を読んで勉強するだけでなく、アルバイトや地域社会での様々な活動を通じて、異なる年齢や様々な経歴の方と接してコミュニケーションをとることが大切ではないでしょうか。普段から様々な場面でのコミュニケーションに慣れておくことはもちろんのこと、自分自身の考えや意見を伝え、相手の考え方、意見などを聞き理解するという訓練をしていくことでコミュニケーション力が培われると考えます。

そういった経験の幅が、考えの深さとなり自分の言葉となっていくと考えています。このようなコミュニケーション力は、一朝一夕には培われませんから、早い段階から関心を広げ、経験をしていくことをお勧めします。一方でただ単に話をしているだけでは語彙は増えません。大学生の早い段階から、日本語検定合格を目標に体系立てて勉強をしていくことが、使える語彙を増やすために重要なことだと思います。

○社会人にとって、日本語検定を勉強する意味はどのようなものでしょうか。

斉藤) 社会人にとっては、とてもいい刺激になると思います。社会人経験が長い方でも勉強を通じて新たな発見があると思いますし、使い方が違っていたということもあると思います。社会人になると自分で機会を作らないとなかなか勉強できないので、ひとつの機会と考えてチャレンジするといいいのではないかとと思います。一方で社会人になると文章を書く機会が増えるため、勉強しておくことで正しく、かつ能率よく効果的な文章を書けるようになるというメリットがあります。